

各種サウンディング技術の液状化調査手法としての適用性に関する研究委員会WG2

平成24年度 第3回ワーキング議事録

日 時	平成25年 1月28日 (月) 10:00~12:00			場 所	地盤工学会 小会議室			
WG2リーダー	末政 直晃	○	WG2幹事	田中 剛	○	WG2委員	尾上 篤生	×
WG2委員	金 哲鎬	○	WG2委員	久世 直哉	○	WG2委員	菅野 安男	○
WG2委員	西岡 佑介	○	WG2委員	水谷 羊介	×			

○：出席 ◎：代理出席 ×：欠席

【議事内容】

1. 静的貫入回転方式によるサウンディング試験の調査

- ・菅野委員より、スウェーデン式サウンディング試験の調査に関して、試験結果の適応範囲、精度および同試験法用いた液状化予測方法についての説明があり質疑応答および議論を行った。（資料 W2-3-1）

調査のまとめ

- ①スウェーデン式サウンディング試験は、手動機、半自動機、自動機と 3 種類の試験機があり、他のサウンディングと比べ特殊な環境であり、主流である自動機の基準が部分的にしか整備されていない。
- ②自動機では、ロッドの沈下速度で自沈を判定しているため、1kN 以下の自沈荷重の取扱が不明確である。
- ③稲田式による換算 N 値が提案された時代に用いられたスクリーポイントの形状が異なることから、現在、用いられている JIS 規格に即したスクリーポイントとの相関性を確かめる必要がある。
- ④スウェーデン式サウンディング試験だけでは正確な土質判別が出来ないため、ロッドにサンプラーを取付けるなどして、土を採取する必要があるが、連続的に採取できない事や特に地下水以下では砂の採取が難しく精度に欠ける。
- ⑤静的貫入回転方式によるサウンディング試験を用いた液状化予測方法として下記の方法が考えられる。  
I, 換算 N 値および試験孔を使用した地下水位の検知, サンプリングにより  $F_L$  値を求める  $F_L$  法  
II, 換算 N 値および試験孔を使用した地下水位の検知, サンプリングによる簡易判定（小規模構造物設計指針簡易法）と微地形分類による判定をあわせて行う方法。

2. WG2 の来年度の方針

これまでのワーキンググループ 2 では、各種静的貫入回転方式によるサウンディング試験の調査を実施してきた。一連の調査結果を受け今後の方針について議論された。来年度の方針としては、手動機や自動機を含めたスウェーデン式サウンディング試験の精度を確かめるとともに、液状化判定に必要とされる各種地下水検知システムおよびサンプリング手法の精度についても実地調査を行い、静的貫入回転方式によるサウンディング試験に適した簡易液状化判定方法について議論して行くこととなった。